



正絹白生地を有効活用した洗顔パフ等の製造

「丹後ちりめん」製造の老舗企業が、正絹白生地の製造過程で発生する織キズのある生地を有効活用した「洗顔パフや浴用タオルなど」を製造。正絹の肌触りの良さからリピーターもいるほどであり売上アップにつながり、和服離れによる着物生地の需要減を補うまでに成長している。

業況等の動向について

本業の動向について

昭和6年創業の「丹後ちりめん」の老舗。撚糸・織り・染めまで一貫した工程で製造販売を行っている。

時代の流れで和服離れによる需要の減少がある。近年の長引く不況、デフレによる消費の低迷が売りに影響している。高額品ということもあり、購買意欲などは経済に左右される。

異業種参入事業の概要

正絹白生地を使用した肌触りの良い洗顔パフや浴用タオル、絹製品の良さを手軽に味わえる帽子や日傘、小物、雑貨などの製造販売。

約20年前から製造販売を開始。当初より売り上げは伸びており、また、商品アイテムも少しずつ増やしている。洗顔パフ、浴用タオルなどは絹の特徴を活かしており、リピーターもいるほどであり、新規の売り上げにつながっている。業況的には、売上高12,000~15,000千円、売上高構成比10.0%となっている。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

正絹白生地の製造過程において発生する織キズのある生地を有効に活用できないかということで考えた。キズといっても、着物用生地としては価値が下がってしまうが、品質的には何の問題もない。

参入して最も成果のあがったこと

織キズのある生地の有効活用になる。現在ではパフ用の生地を織るまでになり、売上高が上がった。また、会社のイメージアップにつながり、海外からの問い合わせが増えた。

参入して最も困難だったこと

正絹を使用する為、例えば小物とはいえ高額になってしまうこと。また卸売面でも利幅の問題などもあり、販路開拓や数の取引が難しい点などがある。商品開発の面で新商品に結びつかないなど、企画においても大変なことがある。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

ちりめん織物の技術。横糸の撚糸のかけ方の技術。小物製品全体にいえることであるが、生地の織りから商品により染めも行うなど、一貫生産によるオリジナル商品を

作ることができること。洗顔パフに限っていえば裏返すと中も使用出来るので全面使用できることが特徴である。

今後の展望・見通し

売上としては20%アップを目標としている。絹織物の特長を活かした商品展開を行うことを考えている。

メリット・デメリット

メリットは、白生地の有効活用ができること。新規の販路の開拓につながり、売上がアップし、結果として増収増益につながる。会社の知名度が上がる。

デメリットは特に感じていない。

異業種参入時のアドバイス

自社の技術や、元々の商品を上手に活用すること。本業とつながっていること。かけ離れた業種にしないほうが良い。

また、一度に拡大を行うことをしない。身の丈に応じて(会社の資本や技術力など)行う。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

- ・京都府「丹後織物ルネッサンス事業支援」
- ・中小企業庁「ジャパンブランド育成事業支援」

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

使用範囲を拡大して、商品開発(一部にはあるが)、販路開拓などへも使える支援。補助金、助成金という後払いのものがほとんどなので、設備投資などが高額になると資金調達に苦慮することもあり、先払いや(一部には半額程度が支払われるものはあるが)途中で支払われるような支援を望む。

会社概要

設立:1949年(昭和24年)8月(昭和6年8月創業)
資本金:30,000千円
従業員数:26名
URL:<http://www.tayuh.com>